

長等幼稚園プラン

をめぐって

司会者 今日はいよいよ新しい保育のやり方について、みなさん、疑問や質問があると
 思いますから、それを一つじかにぶつつけて
 いただきたいと思ひます。私、司会役を
 つとめさせていただきますから、どうぞ遠
 慮なくお話ください。

今日午前中ごらんになったかたが、ここ
 にたくさんおられることと想像いたします
 が……。ここでちょっと午前中を復習して
 みますと、このへやにはままごが幾つ
 もあります、ここで二人ぐらいままご
 をやっています、ピアノのかけでままご
 をやっています、こちらへんでもやっ

て、このへやの中で三ヶ所か四ヶ所ま
 ごをやっています、このへやの中はあ
 スペリタイの下でお魚釣りみたいなのをや
 っています、組木をやっている子がいて、
 それからこのすぐ向かいのへやでもやつぱ
 りままごをやっています、あそこのへやだ
 けでも三ヶ所か四ヶ所ありました。
 向かいのへやのあそこのミカン箱みたい
 なものを打ちつけた中で、ゴシヨゴシヨと
 だれかが何かしていましたね。数人の子ど
 もが……。

こちらのへやへ来ると、床に一面ビニ
 ルが敷いてあって、そこでえのぐで絵をか

いている。そこに先生が一人おられる。そ
 のお隣りのへやではやっぱり床に一面ビニ
 ールが敷いてあって、そしてあそこでは精
 土の幾つものグループがあつて……。今日
 の保育については、みなさんごらんになつ
 たように(参観記参照)、ここでは一日中あ
 そびを中心にした保育をしておられる。お
 昼のおべんとうのときと、帰るときとに集
 まるだけです。それからクラスごとに集ま
 らないで、子どもたちはどのへやに行つて
 もいいようになっています。そして各へや

長等幼稚園職員一同
 大津市教育委員会 河辺泉
 参 会 者 約二〇〇名
 司会者 津守 真
 昭和38年12月9日

は、粘土のへや、絵のへや、音楽のへや、本のへや、何でもできる大きなへや、というように、一応分かれています。では、どうぞ、どなたからでもお話をください

質問① 長等幼稚園では自由保育をしていらっしゃるって聞きましたが、寄せていたことがないので、一ぺんどんなにやっていたらっしゃるのか、不安なような、楽しみにするような気持ちで、六時起きしてやって来たのです。今までわたくしの思っていたような長等幼稚園でなく、子どもさんたちが活発に経験していきるのに、ほんとに驚きました。それで、入園当時はどんなだったか、入園当時からやっぱりこういうふうにやってきたのだからかをうかがいたいと思います

司会者 今のご質問は、今ぱっと見ると非常に活発に動いているので、たいへん予想外なのに驚いた、こんなに活発にするには、いったいどういう指導をすればよいのか、入園当初からいったいどんなになって行くのだろうか、まあこういうご質問のようですが、どうぞどなたか一つ……。

当園 やはり家庭から初めて大きな集団に入ってきて、当園で言う成長体系の第一の

「よりどころを求めている」ことを幼児が満足するようにして行きたいと思えます。幼稚園のあるがままの環境におく、という程度のことから始めまして、常に子どもを見ていて、子どもたちの移り変ってきたその状態をとらえて、私たちの意図するものに調和させて行く、というふうに行っています。じつは、その間に、教師間で職員会議をもちます。初めは、こちらの三組だけはお便所を教えて、向うの二組はお便所を教えないでおこう、と決めました。そして、「先生お便所はどこや」と聞いたときに、初めて「ここですよ」と教えて行く、ということにしたのです。ところが、子どもがいつしうけんめいに遊んでいるのに、その組だけ呼び入れて、特別に「ここは何ですよ」と教えることの必要性がないのではないか、と思うようになりました。それで、全部のクラスにお便所を教えないことにはなりません。また、鼻をかんだ

紙を持って、先生これどこへ捨てるのと、わざわざ廊下から下靴をはいて教師のところへ尋ねたことを覚えているのです。それでよろしゅうございますでしょうか

司会者 一番最初からクラスということはそれほどはっきり分けなくて、今のようになさるわけですか

当園 あの初めわね、組を分けますのにだいたい生年月日順に分けますのです。以前各町内単位で分けておりました。ともかく、一番最初が家庭とそう変わりないようなふんいふにして、先生は子どもといつも遊ぶようにしています。幼稚園へ来たたら、先生に教えてもらいにくる所だ、という意識が家庭にあるわけなんです。ですから、子どもは幼稚園へ来たたら、何か教えられるのではないかと心配し、もし、むずかしかったら、どうしようか、という不安があるわけです。けれども、いつまでたっても先生は教えてくれるという様子もない。そうすると、親について来てもらって、不安な子どもが、だんだん「帰ってくれてもいいわ。幼稚園はむずかしくない」とこやし、ほ

んでもう帰ってくれてもよい」と言うようになりませう。そういうようにして、子ども同志が、幼稚園はこわくないところ、なにも先生から教えられて、むずかしいことをするところじゃない、家とちよつとも変わりなしで、家よりもつとおもちゃがたくさんあり、友たちがたくさんあって、楽しい所だという気持を、徐々に持つようになります。心から、自然に安定するようになつてきて、初めて、その中で、子ども自身の安定感ができ、いろんな活動をやるうとする意気込みがわいてくるわけです。それで、子ども自身に聞いてみても、「あんたはきょう返つてきてもらわなかつたのね」「フン、幼稚園は何もせんでよいとこやさかいに、もういらん」と言つて自身がそう言つています。そういう気持を充分自分で味わつた上で、初めて子どもが、「もうやろうか、むずかしくない、何でもやつてよい」という心かまえて、幼稚園は自分らで好きなことがやれるんだ」という気持になります。そういうことがずつと身についていきますから、現在でも、何でもやれるん

たという気持で、自分らで、結局遊びをみつけて、やつております。

質問② お便所などは、初めに教えておく組と、教えなかつた組があるとおつしやいましたかその場合、とういうところに差違が見られましたか。

当園 ま、たく差違は見られませんでした。どうしても便所に行かなければならない必要性のあるときには、先生に「お便所どこ」と聞きにまいりますし、また、お友たちに「教えたげよう」と言つている子どももあります。それで、四月入園当初からおしつこをたれる子どもはありませんでした。

質問③ クラスの解体は、朝登園してまいりますから、帰るまで、そうしておられますか。

当園 その通りです。でも幼稚園には行事がございますすしね。また、教師の意図があつた場合には全部集めて幻燈をするなり、そしてまた、園全体の行事として誕生会をするなり、そういうときはございます。また、帰る前にはクラス別にまとまつて歌を

うたつたり、その日の反省を聞いたり、促してやつたり、あしたのお話し合いをした、それから、お話なんか聞かしてやることもあるとか、日によつて違いますが、このような扱ひ方です。

質問④ 自由遊びと單元活動との関連について、どういふふうにおおえになつておるのですか。

当園 そうですすね。單元活動というのは、いわゆる教師が意図的にもつた指導のことを考へておられるのですか。

質問④ わたくしどもは、單元活動で「木の葉、木の葉」というような單元をきめております。けれども、遊びの状態は、きょう見せていたたいように、主として、グループでいろいろと子どもが遊びます。

当園 子どもに何かをもう一つ深めたいという意味で、單元保育をなさるわけですのね。子どもの姿からでてきたものを、もう一べんそれを幼児全体にさせてやりたいと思ひ、させてほしくない子どもがあつてもさせてやりたいと思つて、教師の意図でおやりになるわけですわね。わたくしたちは

教師の意図というよりも、子どもを主体にして、子どもが遊ぶということを大切にしたり扱っております。その子どもの生活の中で、子どもがそれぞれする活動に、こちらが援助することが主になります。改めて子どもにこれをしなさい、これが適当だから、こういうものが成長するのたいへんプラスになるからという考えてやっておりません。たとえば、この虫の成長が子どもたちに科学的に理料的に大切だから知らなければ一年生に成長して行けないのたという考えは、わたくしたちはもっていないわけです。人間として成長していく上の一歩基盤となる一つの生活態度が欠けていないだろうか、ということの方がわたくしたちは重大に考えております。

中途はんばで出ていった子どもには「あんたこれのできたの、おしまい？」と聞いてみて、子どもがおしまいと言った場合には、それを認めてやらなければなりません。教師はそれができていないと思っても、子どもはそれができていると思っているかもしれないのです。で、「これでおし

まいなの」ときいてやったときに、はくはこれのできたんだ」と言えば「できたんだ」たらよいわね」と言いますが、それをこちらが「いやいやできていない。このところはこういうようにしたらどうか」とか「このところに、こういうふうにもっていったらよいのだ」というのは言ひすぎと思います。これは教師の考えで、子ども自身はそれで満足してきたのだという考えをもっていればよいのです。結局一人の子どもの内面的なものは、こちらの考えている以上の何か違ったものをもっているんじゃないかと思ひます。それをこちらが見抜かないで、たまたまこちらの言いたいことだけのことを言うと、子どもが自分を出す機会がないわけですね。そのような機会なしに成長させていったときには、自分というものを引き出さないで、人の言うことばかりに従って、何か悪いことをするという内政的な子どもになってしまうのじゃないでしょうか、わたくしどもは、子どもの活動自体を認めてやるというふうにやっておりますので、いわゆる単元保育とか、計画保育的

なことは第二段階に考えています。それを必要とみなしたときには、はっきり指導してやる。あなた、ここへ来てこれやりなさい」というふうには、家でしょっちゅう言われている子どもには自分でできない子どももありましたから、その子どもにはその子どもなりに、この子は家で人に言われなければできない子どもだ、じゃ一べんつれて来て「これやってみてごらん」と与えたときに、始めて「やろうか」という子どももあります。たからいつも子どもを見ていないと、十羽一からけの同じようなわけにはいきません。きょう見ていただいで落度があったかもわかりませんが、われわれも人間でございませうので、日々きばってやっているので、少しでもプラスになつたらうと思つて、まあいっしょうけんめいやっていくわけですね。

質問⑤ 園児が一年間しか幼稚園に來ない場合、十一月なら十一月に、十二月なら十二月でないといけない経験というものがあろうと思ひます。その十一月でしかできない子どもの経験を、やはり単元活動でもつてい

って遊びの中からそれを経験させてあげた
いという意図のもとに目標をたてることが
必要だと思いますが

当園 その十一月ごろに、彼らが経験できな
いたろうというふうに先生たちが予定し、
想像していらっしやるものはどういうもの
ですか。

質問⑥ クラスを解体しておられて、そして
子ども自身がしたいことを全部していく場
合にどうしても、子どもに指導しておか
ねばならない一面がぬけないでしょうか。
それとも一人ひとりを十分に見ていけば、
体に一度に徹底しなくても何の心配もない
ものでしょうか。たとえば手を洗うとか、
集会なんかした場合にはしんぼうするとか、
順番にお話をするとか。

当園 じつは一斉にしていらっしやったら、
どの子にも全部に身につくかとおうかがい
しようかと思っただけです。

もちろん教師の数にも限度があります
が、初めの間はトイレまでついて行ってお
りまして、そして終るまで見とどけて帰っ
たりとか、そこでしに来た子どもにもこう

いうふうにするんやわと言って、そのつど
そのつどお話をしているとか、まあそうい
うふうなやり方でやってきておりますけれ
ど

司会者 とうもありがとうございました。た
いへんにいいお話を聞かせていただきました
た。今すこし皆さんで、そこそこにはつほ
つお話のでてきましたことを、どんなお話
か、ご意見を、どうぞこちらへお聞かせ
下さい。

質問⑦ 子どもがいろいろの面で気になるよ
うなことをよくすることがあるのですが、
そうした場合には、あの子はこうだからあ
すはこの点に気をつけようとかを、子ども
が帰った後で思ったりいたします。個人の
子どもとの精神的な結びつきは、どのよう
にしてつけるのでしょうか。

当園 こうして、それぞれのいろいろなあそ
びの場にわかれておりますと、自分の組の
子どもが、いちいちどこでどう遊んでいた
かは見られないわけなんです。そこで子ど
もの帰りました後、自分の責任のあったあ
そび場について話し合うわけです。背中の

番号によって入園当初はあまり名前の知ら
ない子どもも、その番号でおぼえるわけ
です。何番の子は、きょうはこういう遊びを
していたとか、いろんな性格的な問題だと
か、遊びの態度とか、内容を持ち場の責任
をもって話し合うわけです。それを聞いた
担任がクラスの記録簿にメモしていきま
す。すると自分のクラスの子どもがきょう
一日たいいどんなことをしていたかつか
めるわけです。子どもたちもその日帰りま
す前には、きょうどんなふうにお遊びして
いたとか、どんなことを考えたとか、いろ
いろな話し合いをするわけです。遊びの持
ち場は、一週間から二週間かわります。
と申しますのは、その先生の個人の指導が
あまり出ないようにするためです。持ち場
をかわると、次にひきつぎたいようなもの
がありましたら次の持ち場の先生にくわし
く申し送りをするわけです。ほかに親から
の連絡があった場合には、きょうその子ど
もの行った場では、一応その子どもについ
て気をつけていたかどうかのように、急な場合で
したら朝短時間にも打ち合わせを、時に

応じてやっております。

質問⑧ 今言われた子どもについての先生の報告会は、毎日やっておられるのですか。

当園 できる限り毎日やるようにつとめております。

質問⑧ それは時間的にはどれくらいなんですか。

当園 子どもたちが帰りまして、おべんとう持ちでない日は、午後わりに時間がもてますけれど、おべんとうのありますときは、二時過ぎぐらいになり、それから各室のそうじをして三時ごろになります。あまり長くしてありますとあくる日の保育の準備にさしつかえますので、平均一時間くらいでやっております。

質問⑧ だいたいまあ一時間くらいでこの報告ができるわけですか。

当園 あの、初めはなれませんが相当時間をくうわけなんですけれども、だいたいの要領がわかってきますと、ある程度大事な事は話し合えるように思っております。

質問⑧ それをノートに記録される先生の努力はたいへんだらうと思えます

当園 先生が、何番と何番とがこういうふう

にしていた、この所でこのような物を持って来て何をしていた、そして何番が出て来てそれを取り上げてしまったと、そしてそれはその子が泣いてしまったと、そのうのと言われる事を、内容的に先生が記録するわけです。まあたいへんでございます。

質問⑧ あの、ついでですが、子どもの背中に番号がついておりますが、子ども同志はその番号で呼びあうわけなんですか

当園 いえ、名前を呼びます。わたくしなんか全体の子どもが埋解できないでいますと、先生はく一〇三番で何々や、とちゃんと番号を言って来られます。で、スモックなんかで、このスモックだれのやろと、言うのと、先生何番、それはだれたれのやわ、とよその番号まで覚えているわけです。

質問⑧ だいたい一年間で一八〇名の子どもの名前をだいたい覚えられるわけですか。

当園 まあ覚えられますかね。教師はたいたい後から番号を見ながら名前を見て記録し

ます。遠方の方へずーと走って行っても、後から記録がずーととれますんです。よくよそさんには、大きな番号をつけて、と笑われておりますけれど、入園のとき初めにホンと子どもにはあれをつけます

当園 それから、先程ご質問になった、教師と子どもとのつながりにしてもう少しつけ加えさせていただきますと、ほくの先生はたれであるとか、何組の先生はたれであるという事はよく知っています。全体の先生、つまりおとなの先生全部が自分たちの先生であるというふうにいると思っております。なぜかと申しますと、保育の形態が入園当初から解体ですし、子どもは毎日自分のやりたい遊びの場へ行くわけです。その場、その場にそれぞれ教師がいますし、子どもたちはその場の先生に困っていることや尋ねたいことなど、何を話してもよくなるように聞いてもらえるものですから、子どもたちは違う組の先生だということも何もなしに話しかけます。それによって、幼稚園の先生はみんな自分のことを聞いて下さる先生だ、私の先生だというふうな気

持をもっていますことには、間違いないと思いますけれど。園長であると思しき先生とへやの中へ用事を言いつけに来ますし、すぐとんで行ってやれる状態ではありませんから、すぐ走って行ってやりますと、子どもは安心して遊びを続けます。ともかく、幼稚園の先生はみんな自分の先生であるという意識、だれに頼んでもかまわないというような気持で最初からおりますのです。入園しまして、初めから組の意識をもたさないように教師自身がそのような態度で接しておりますので、どんな困ったことや悲しいことがあっても、訴えに來ますし、われわれも共に泣いてやることもあります。

司会者 またいろいろおありだと思いますが、たんたん夕方になって涼しいのが通り越して、わたくしもきょうここにおうかがいしてまた新たにいろいろなことを学びました。なまの野菜を使ってほうちょうで切っておりますが、都立で東京でこんななま野菜を使ったら教材費がかさんでしょうか

ないのですが……笑……そしてうかがったら、みんなこれは子どもがうちからぶらさけて持って来たんだそうです。自分で持ってこられたという話なんかうかがって、いいなと思いました。わたくしはこの幼稚園に三年ほど前にうかがいまして、たいへん感心したのですが、ここで組の壁をこわしてやっていらっしゃる、これをまあ、よく「解体」と言ったりするのですが、わたくし自身「解体」するとかしないとか、そういったこと自体にはあまり大きな関心がありません。それよりむしろ、子どもがどれだけそこで真剣に動いているか、子ども自身がどれだけ目に光をもつて動いているか、それが非常に大きな関心です。きょうここに入ってまいりまして、こんなに大ぜい来て、いっしょうけんめいやっている子どもは、夢中になってこっちなんか見やしないですしね、写真なんかとっていてもたれも見向きもしやしない。みんないっしょうけんめいその場でもって遊んでいる。それだけの真剣さを見ました。こういうことが小学校にいくとたんたん子どもの姿が見

えなくなってしまうと、教科と先生の姿だけしか見えなくなってしまう。だから小学校に見に行くのはあまりおもしろくないのです。

ここらで小学校の校長先生に一言、きょうのことでもなにかお話をうかがってみたいと思います。

小学校長 大事なことは子どもたちの感情をいかに受容しておられるかということ、これがなんととっても一番大きな問題であると思う。今もお話がありましたように、「解体」するとか「一斉」にするとかいうような問題ではないのでありまして、子どもたちの一人ひとりの感情をうまく受容してやるのが重要なのであります。そのうらをかえせば、子どもたちのほんとうの自発的な意欲というものを非常にうまくリートして盛り上げているとわたくしは思う。きょう、先生と子どもとの関係ということを問題にしておられましたが、今までのように教師が教室の中で大きくクローズアップされるのではなくて、教師の存在は小さい存在ながらはっきりしてあるけれど

も、教室いっぱいの子と私たちかクラス
アップされるという形態がわたくしとして
は望ましいものと思います

きょうお聞きしておりました中で、十分
されておつたと思っております

それから同時に、そういうことをやるに
は、学校でもよく自発的な学習ということ
をやるのですが、その場合に「とりばや
く、やりよいのは、たとえば国語の自発的
な学習をさせるんだ」といって、国語の学習
の順序をこっそり子どもに教える、本を読
んだり、すしをひいたり……ところがこ
れは問題であると思うのです

ここのやり方の場合でたとえば、使所か
こころであるというふうにいちいち教えて、
ばつと手離すのではなく、最初から手離し
てしまつて受容している、これも進歩的な
学校ではやってゐるようですか、こんなや
り方ではないと身につかないのではないかと
思う、そういうことを思いきつておやりにな
つていらっしゃるといふことは、進歩的
なやり方ではないかと思つております。そ
れと同時にそれをやるについては、子ども

というものをしっかりとつかめておられま
せぬならぬ、それかここでは非常によく
つかんでおられます。じつは、わたくしも
十年前に五年程かかつて、一年から六年
までの子どもの研究と取り組んだことがあ
るんです

きょう当園の二発表の中に事例が出てお
りましたか、あの「とおせんぼ」のお話が
出ておりましたが、あの「とおせんぼ」が
すくにああいうような指導の方向にもつて
いけるような措置というものは、や
っぱりふたん先生が子どもを、握っていな
ければできない。今子どもはほしい、何
を要求しているのか、あるいは今という
構え方でやっていくんかということ、即
座に判断できねばならない。そしてワツと
怒るんではなく、しばらく引き下がって今
この子はいったい何を望んでいるかと、時
問の余裕、空間の余裕がおけるような指導
をしていなければならぬ

うちの子どもはこういうものである、こ
んなことをやっているが、これはたぶんこ
んなつもりでやっているものであつて、こ

いうようにしてやれば、こんなに伸びるの
たという遠い先のことまで、つかんでおら
なければ、この形態は非常に危険性がある
と思つたのです。うまくやつてはるな」と
簡単にまねかてきないものと、わたくし
は思います。それで一斉にやるか、やらな
いかというお話がありましたか、わたくし
は結局子どもの側に自発的にやれるところ
の受け入れ体制ができていくかいないかと
いう問題を解決してかからなければならぬ
い。そのためには教師が受け入れ体制がで
きているかどうか判断ができるということ
かたいせつである。そうしたことできて
おらないとやつていくからというだけで
は、非常に危険性がある。わたくしも、も

一つ自発的な学習と言いますけれども、ほん
どうの自発的な学習とは、最近わたくしたち
はきひしい教育と言つたのです。きひしい
教育とは、頭をなぐる教育ではないので
す。生活の対象とにかく真剣に取り組ん
でいるということである。ここにある学校
の特殊教育で、ある学級を見に行ったので
すが、これは中学校の子どもですが、じつ

にな剣真そしてふんい気では非常にやわらかなものですが、その子どもたちはものすごい日つきでやっております。さつき「ままごと」の話がありました。それは甘い「ままごと」ではなく真剣にやっているのです。そのきびしさをもつと教育の面にあげられてこなければならぬ。そういうことは小学校でもやられますけれども、やっぱり、時間的な制約がありますので、ほんとうに子どもが自分の意志でやるという場が与えられない。幼稚園ではそれができる。こういう自由遊びの保育指導なら、自由にそれができると思う

わたしは親に言うのですけれども、子どもたち一人ひとりに少なくとも一日に十分か十五分、ほんとうに真剣にもの事に打ち込める時間、場所が与えられないものだろうかと思うのです。数学や国語をやっておりますもやっぱり、これはも一つ教室があるとか、時間がきめられるとか、先生がいるとかいうようなことで、ほんとうに自分が打ち込んでいることができない。しかし、遊びの世界ではこれができるわけで

ある。そういうことが小学校ではむづかしい。ところが、幼稚園では現在おやりになつておられるということは、非常に理想的な形態だとわたくしは思うわけです。それとも一つなんといえますか、真剣さ、きびしさの教育を、わたしたちひよつとするとほき違えるのです

それから一つ、感情を受容するということについて基本的には先程おっしゃったが、子どもの成長を期待する、成長の可能性ということを信じてやるということ、これなくしては、わたしたちは教育することほできない。ことにこの教育ほできないものだと思う

小学校の方におきましても、こういう形でやられた子どもが幼稚園から小学校へ来た場合は、これはすばらしいものができるのじゃないかと思えます。先程質問がありました国語や数学の面におけるところの能力差というものが考えられますけれども、それはわたしは許容できるものであると思えます。そうでなくても個人差というものがあつたから、われわれ、こういう

ような保育でやっていかれた幼稚園の、その上に小学校がどんなふうに通っていくかということが、大きな課題であると思えます。今までは、どこの幼稚園も小学校も、はらばらになつてましてお互いが悪口を言いあつているという、こころへんにちよつと問題があると思うのです。だからもう少し小学校の先生が幼稚園の先生を理解し、幼稚園の先生は小学校の教育を理解して、その上に立つていくなれば、その断層がなくなるのじゃないかと思うわけです。この上に、たてられていくところの真の生活態度の問題が考えられていくならば、きつとすばらしい教育の実を結ぶものと思えます

司会者 どうもありがとうございます。この幼稚園の上に今度、小学校の教員がほんとうに続いて下されれば、たいへんいいと思うんですが……。きょうあそこでビニールを床に全部敷いてね、そこでえのくをやったりねんどうをやっている。だからねんどうだつて、かつとたたきつけている子もいました。ああいうことが思いきつてなされる

ように、床にまで全部とニールを敷くくらい、そのくらいのことをお考えになったことが貴重だと思います。それから普通は自由遊びといっても東京あたりで見ても、自由遊びの時間だけの遊びです。そのあととはいがい十時頃で打ちきって今度はまた何か別のことを、いわゆる単元遊びみたいなことをやるわけです。すると、その時はもう子どもたちは、つまらなくなってしまうので十分か十五分すると先生も統かなくなつて、また自由遊びにするんです。けれども、その自由遊びは元の自由遊びにつながらないで、元よりもっと低調なことになってしまつたりする。まあ、それがね普通の型なんです。が思ひきつて朝来てから帰るまでとぎれないで遊びをやっておられる。これは自由遊びというよりも、まあむしろ、生命全体の遊びですね。それだけの思いきつたことをなされたということ、それがじつに、ここの教育の大きなさきえになっているし、それだから、その勇氣をもつて今度は組を解体なさつたと、そういうふう理解できるでしょう。皆さん

もぜひどうか自分のできる範囲での思いきつた改革をなさることをおすすめいたします。ここの幼稚園でそれだけ思いきつたことをするには、やはり理解とそれだけの働きがなくてはできない。わたしは、河辺先生がその大きな指導力、陰の指導力を持っているなと思います。そこで、河辺先生に最後に一言お願いします。

河辺 わたくしは、日頃この幼稚園に寄せていただいて、子どもとじかに接触するということ、何より楽しみにしております。ある日、砂場の所でフンファンを持って遊んでいる子どもが、私に「オッサン、このフンファンどうして足を動かしているか知っていますか」と言うのです。いつも幼児にそういった点でしてやられるので、そのときは必ずうまく返すようにしているのですが、なぜだろうな、ぼくどう思う、ということに返したのです。そうしたところが、「飛びたがっているの」と一言言ってくれた。それには、わたくしも次の句が出なかつたのですけれども、なるほどその通りであつて、おそらくもがいているというこ

とは、飛びたがっているのたろうと。わたくしもそのとき子どもから教えられたのです。そういうここの子ども自体が、すぐに対象の気持になれるということ、そういうところが我々に欠けている一つのものじゃないかと思う。いつもその点で、この幼稚園へ来ると教えられる。だからそういう子どもに、つとめて接するように、それを楽しみにして今までやってきているわけですね。職員室へ入るとわたくしの顔を見るなり、すくに、きょうたくさん言われたようなケースか、一番にとび出してくるわけです。授業より先にじつげきのうこういうことかあったとか、いろいろのケースか出てくるわけですね。そういうような子どもの成長とか変り方とか、きょう津守先生がこういうことばを使われましたが、「きのうはこうであつたか、きょうはこうあつた」という、たれもあたりまえに思うようなことに、非常な驚きをもつて、まなこを輝かしておられる。これが子どもの成長をほんとうに助けているのじゃないかと思うのです。それから、わたくしは、子どもをどうい

うふうにさしているのじゃなからうかと思
 っております。それからもう一つは、さき
 ほど、「子どもが子ども自身でありのま
 ま」ということが、津守先生のことばの
 中にありましたが、なかなかできないこと
 ですけども、先生自体がやっぱりありの
 ままでなければいけないということは、わ
 たくし、この頃強く感じております。それ
 は、今虫の話で教えられましたけれども、
 子どもはほんとうに子どもなりになれるの
 ですけども、教師はなかなか自分のまま
 になれない。次はどういうふうに上手に言
 ってやろうかなと思つて、質問を受けたと
 きに構えてしまう。構えてしまつている間
 に、子どもは先に答を言つてしまつてい
 る。こういうのでいつもこちらがゴテゴテ
 にさがつてしまう。それはやっぱりこちら
 に素直がないからじゃないかということ
 を、じつは強く感じているのです。そうい
 う点で、教師自体がそのままになる、素
 直になる、ということができないければ、な
 かなかこういう指導ができないのじゃない
 か、とこんなことをここに來ていろいろ

わたくしが学ばしていただいたようなわけ
 なんです。

司会者

どうもありがとうございます。き
 ょう午前中ここで見ながら、いろんなこと
 の話を小耳にはさんでおりますと、いった
 いこの中で指導ということがどう行なわれ
 るだろうな、というようなことを言つて
 いらつしやるかたもありましたが、前に報
 告になりましたいろいろの事例、あれはず
 ばらしい指導の例だと思います。それで今
 言われたありのままのその中に指導が生ま
 れてくるし、その中に指導が入ってくるど
 きにはほんとうにそこに地についた発展とい
 うものがあるのだと思います。きょうここ
 らに伺つて、世界中に幼稚園がたくさんあ
 っても、先生がたがこれほど熱心で、こん
 な夕方遅くまで議論しあう日本の幼稚園
 は、世界に誇ることができると思います。
 きょうはわたしの司会で、たいへん不手
 ぎわで時間がどうも超過してしまいました
 が、さきほど解体それ自体あまり問題では
 ないと申しましたが、今のままでみんな
 いのじゃなくて、できればこういう解体が

できることは、これは大きく一歩前進であ
 ると思うし、クラスの解体ではなくてもど
 こかでそういう壁を打ち破ることが必要だ
 と思う。いいことのために、それだけの
 勇気をもつて努力することを、わたしたちも
 とともに考えていきたいと念願しており
 ます。

予 告

幼児教育講習会

日 時 昭和 39 年 7 月 22 (水) -- 25 (土) 日
 午前の部 9.00--12.00
 午後の部 1.00-- 4.00
 会 場 お茶の水女子大学講堂
 主 催 お茶の水女子大学附属幼稚園内
 日 本 幼 稚 園 協 会